
J S A 支部会報 No. 8 2

2009年5月1日

目次

日本科学者会議宮崎支部第42回定期大会議案書	
私たちを取り巻く情勢	1
2008年度活動報告	2
2008年度活動日誌	5
2008年度会員状況	6
2008年度決算報告・特別会計報告・会計監査報告	7
2009年度活動方針案	9
2009年度予算案	10
役員名簿	11
日本科学者会議宮崎支部規約	12

第42回定期大会議事次第

日時：2009年5月23日(土)16時～17時
場所：宮崎レマンホテル会議室

1. 開会
2. 議長団選出
3. 議事
 - 1) 2008年度活動報告
 - 2) 2008年度会計報告
 - 3) 2009年度活動方針案
 - 4) 2009年度予算案
 - 5) 2009年度支部役員を選出
 - 6) 全国役員を選出
 - 7) その他
4. 閉会

私たちを取り巻く情勢

自公連立政権による安倍・福田内閣が相次いで自壊し、麻生内閣が、国民の意思を問うこともなく発足した。その直後にサブプライムローンの破綻を契機としたアメリカ発の”恐慌”とも言うべき経済危機は、瞬く間に世界中に拡がり、特に日本は極端な輸出依存の体質から、その影響を強く受けている。麻生内閣の不人気と共に、この事態への対応も後手に回り、自動車産業や電機産業での”派遣切り”の言葉に代表されるように、働く者へのしわ寄せが極端な形で現れている。1年前の経済状況からは、全く想像もできない事態である。このような事態を引き起こした新自由主義路線の破綻も明確となっている。規制緩和により、労働者派遣の範囲を専門職から一般労働まで拡大し、安上がりな人件費を作り出し、企業の内部留保は巨額となる一方で、働き場所や住む場所さえ確保できない雇用実態が明らかとなった。また、医師不足による診療中止や救急医療体制の破綻も顕著になり、更に、介護保険は徴収されていても介護サービスを利用できない深刻な実情など、私たちの生活のもっとも基本的な領域で、危機的な事態に立ち至っている。

このような格差社会の問題点も明らかとなる中で、安倍内閣が重点課題とした明文改憲の動きも、急激な経済危機の前に一見弱まっているかのようにも見える。しかし、ソマリアでの海賊対策と称して自衛隊が”極東”から遠く離れたアフリカ沖まで派遣され、また、在日アメリカ軍の再編に伴い宮崎県の新田原基地が強化されるなど、実質的な憲法9条の変質を目論む動きも一貫して進められている。

一方、高等教育に関しても、法人化以後において大学間格差が一層際立ってきた。例えば、国立大学の中でも、旧帝大等の大規模大学と地方にある中小規模大学との教員一人当たりの教育研究費の比率は、法人化前後で約2倍から4倍へと拡大している。この格差は、同じ授業料を負担しながらも、学生の教育研究環境の格差に直結している。また、国公私立大学/高専を含めて様々な機関による評価が行われ、教職員はこれへの対応で多忙化が一層深刻になっている。特に、国立大学は第1期中期計画の終了時期を迎え、教職員は、大学評価委員会による評価結果が第2期中期計画の運営費交付金配分に影響を与えるとの”脅迫的”環境下におかれ、将来の展望を持ちにくい状況となっている。

また、宮崎県における高等教育の状況についても、南九州大学が都城市へ移転し、新たなキャンパスの開設が行われた一方で、聖心ウルスラ学園短期大学の閉鎖も報道されるなど、少子化の下での様々な動きが明らかになっている。

科学者会議宮崎支部は、大学高専の現職教員のみならず、その退職者、更には、多くの弁護士や医師等の専門職の会員等を含めて構成されている。これらの分野横断的な組織の特長を生かして、急激に変化する社会に対して機敏な対応が求められている。とりわけ、「教育の機会均等」、「学問・思想の自由」を柱とする、現憲法・旧教育基本法の先進性を改めて確認し、その理念を具現化する運動が、この局面でもますます重要となっている。

2008年度活動報告

(今期活動の力点)

今期の活動は、この数年、退職等による会員数の漸減傾向を克服できていないことから、活動方針6（支部の組織・財政の強化）を強く意識しながら進められた。

・組織強化について

常任幹事会、支部幹事会では、しばしば、退職者会員の活動のあり方、新たに会員を勧誘する方策が話し合われた。新たに会員を勧誘する方策として、支部例会のほか、読書会、懇談会等をこまめに重ね、かつ、その開催案内のチラシを、特に宮崎大学教員に配布することをこころがけた。全国的な傾向として退職者会員が活動の中心を担うという支部も登場しているが、宮崎支部でも会員に占める退職者の比率が増加しつつあり、退職者会員が今期の活動で大きな役割を果たすなど、今後の支部活動の方向について重要なヒントが得られた。

・財政強化について

従来の会費徴収業務には、それなりの重要性はあったが、結果として滞納額が漸増するなど支部活動の大きな足枷となる傾向があったことから、前期に続き今期も「会費の口座引き落とし」を推進した。また、これまでの滞納の整理に努め、この結果、会費納入率の改善、滞納額の減少、会費上納の遅れの解消など、財政面の改善は大きく前進した。

(今期の会議・集会の概要)

1. 第2回宮崎支部読書会 (2008年5月22日(木)、宮崎大学工学部)

今回のテーマは07年12月号の特集「地球温暖化問題をどう受け止めるか」から、“地球温暖化問題への自然科学的アプローチ：林弘文（元静岡大学）・寺尾徹（香川大学）”を対象とした。読書会には農学部院生1名を含む8名が参加した。

2. 第26回九州・沖縄シンポジウム (10月4日～5日、九州大学六本松キャンパス)

“「環境・平和・学問」に関する連続講演会－21世紀の九州沖縄を展望する”と題して、シンポジウムが開催され、環境問題では、“よみがえれ！有明訴訟弁護団長”による「諫早湾干拓事業差止訴訟」の経過報告、平和問題では“長崎県平和委員会”によるミサイル防衛システムについての講演なども含まれ、内容は多彩であった。また益川敏英氏（現京都産業大学）による「今、大学に何が求められているか」と題する特別講演が行われ、ご自身のユニークな「ノーベル賞観」に触れられた部分もあったが、講演2日後に氏のノーベル賞受賞が現実となったことは、シンポ参加者にとって、真に奇遇であった。

宮崎支部からのレポートは、以下である。

①第1部「九州の環境問題」において、小玉直也氏（赤江浜を守る会）が「宮崎海岸の行方」と題して、海岸侵食の原因と推定される海岸コンクリート構造物の新たな建設計画を阻止する取り組みについて発表した。

②第4部「大学の現状と課題」において、野中・平野による試論「運営費交付金削減は国立大学にどのような影響を及ぼすか－宮崎大学財務諸表の分析に基づいて－」を発表した。

3. 第3回宮崎支部読書会 (2008年10月24日(金)、宮崎大学工学部)

今回のテーマは、第2回読書会に引き続き、07年12月号の特集「地球温暖化問題をどう受け止めるか」から、“地球温暖化緩和への森林の貢献：松本光朗（森林総合研究所）”を対象とした。読書会には、6名が参加した。

4. 2008年度第2回宮崎支部幹事会 (2008年12月13日, 宮崎レマンホテル)

8名の幹事の出席を得て, 支部幹事会の成立要件が満たされたことを確認した.

最初に2008年度上半期の活動経過報告があり, 第2回および第3回宮崎支部読書会, 第26回九州・沖縄シボ (福岡) への取り組み—これに関わって宮崎大学の財務分析勉強会の活動, 九条の会講演会(宮崎市)への協力等について報告があった.

次に3つの議題について, 審議した.

- (1) 特別会計(旧公害環境部資金)の扱い → 当面現状通りの取扱いとする.
- (2) 宮崎支部の今後の活動形態 → 会員の年齢構成等を把握し, それにふさわしい活動のあり方を模索する.
- (3) 宮崎県平和委員会講演会の後援 → 後援を了承した.

5. 第26回九州沖縄シボ報告会 (2008年12月13日, 宮崎レマンホテル)

10月24日九州大学六本松キャンパスで行われた九州沖縄シボにおける宮崎支部の2件の発表の内容について改めて紹介された. 参加者は, 上記幹事会の参加者に新たに8名が加わり, 計16名あり, この種の会としては盛況であった. (シボ全体の概要については, 省略する.)



6. 2008年度宮崎支部懇親会(忘年会) (2008年12月13日, 宮崎レマンホテル)

上記の九州沖縄シボ報告会終了後, レマンホテル内「ぼくと」で支部懇親会が開かれ, 12名の会員が参加した. 宮崎大学からの参加者が多いこともあり, 話題は宮崎大学内の事務処理問題に集中し, 世界同時不況を反映してか, あまり景気のいい話がなかったことを記録に留めたい. しかしながらOB参加者を含む多彩なメンバーが集まり, 懇談できたこと自体が大きな成果であった.

7. 第4回宮崎支部読書会 (2009年01月30日(金), 宮崎大学工学部)

今回のテーマは, 「日本の科学」2008年7月号レビュー“地球温暖化で問われるわが国の社会経済構造”(松川康夫氏(JSA事務局長))”を対象とし, 会員外の研究者も含めて9名の参加を得た. チューターからは, 論文の各章に対応した補足資料およびコメントも含めた分かりやすいレジメが配られ, また, パワーポイントのスライドも使って論文の紹介があった.

チューターからの報告を受けて, 参加者からは多くの質問や議論が展開され, 予定時間2時間が瞬く間に過ぎ去り, 特に, 農学系や工学系の教員が多かったこともあり, 今後の工業や農業のあり方, また, ルールなき資本主義の是正の課題等について大いに盛り上がった.

8. 第65回憲法と平和を考えるつどい (2009年2月11日, 宮崎市中央公民館)

テーマ: 2009年の世界と日本 — 金融危機と世界不況の中、日本の進路を考える —

講師: 友寄英隆氏 (経済学者, 経済誌元編集長)

急激な経済危機を背景に, 参加者は約120名と多数に上った.

講演では, まず今回の世界的な「金融危機・世界不況」は, 21世紀の世界史の方向に関わる重要な歴史的意味を持っている. 第1に米国型「金融モデル」の終焉の始まり, 第2に米国の「戦後第2の繁栄の時代」の終焉の始まり, 第3に新自由主義的資本主義の終焉の始まりという3つの歴史的意味を持っていること等が述べられた.

講演は, わかりやすく整理されたレジメに沿って展開され, かつ独自にいろいろな文献

から作成した貴重な統計データと図表，また日本資本主義発達史年表などを駆使しながら，難しい経済問題をわかりやすい言葉で話された。最後に今日の金融危機と世界不況から脱出する方策についても言及され，それは日本変革のチャンスであることを指摘した。

総じて，非常に質の高い講演であり，参加者は得るところ多く，勇気を与えられた。



9. 第66回憲法と平和を考えるつどい（2009年5月3日，宮崎中央公民館）

テーマ：憲法9条で未来を拓く

講師：小沢隆一（東京慈恵会医科大学・憲法学）

講演では，①ポツダム宣言受諾と憲法9条の誕生に関わる歴史的事実の紹介と日本の敗戦から学ぶこと，②憲法9条の現状，特に，集団的自衛権をめぐる状況とその容認論がねらうもの，③イラク自衛隊派遣の違憲名古屋高裁判決の意義等について，資料に基づいて大変わかりやすい説明がなされました。講演途中の〈しばしの道草〉では，南部成人白人男性の20%が戦死したアメリカの南北戦争について紹介があった。アメリカは，その悲惨な戦争から学ぶことが不十分であり，人種差別撤廃は100年後の1960年代まで持ち越すことになった。



講演後の質問時間でも，活発な質問と講師の回答により，講演内容がより豊富になった。憲法の諸機能を発揮させるためには，国民の不断の努力が求められていることも強調され，大変有意義な”つどい”であった。大型連休中の日曜日にもかかわらず，100名の参加者があった。

2008年度活動日誌

2008年	5月	17日	第41回宮崎支部定期大会（宮崎レマンホテル）	
	5月	22日	2008年度第2回宮崎支部読書会（宮崎大学工学部） 「地球温暖化緩和への自然科学的アプローチ」JJS, Vol.42, No.12, pp.4-9.	
		5月	24日	JSA第39回定期大会
		6月	2日	第1回支部常任幹事会
		6月	28日	2008年度第1回全国常任幹事会
		7月	12日	九条の会講演会（宮崎市文化会館）
		7月	8日	第2回支部常任幹事会
		7月	20日	九州沖縄地区会議（那覇市）
		8月	4日	第3回支部常任幹事会
		8月	12日	第4回支部常任幹事会
		8月	28日	第1回財務分析勉強会（宮崎大学工学部）
		9月	3日	第2回財務分析勉強会（宮崎大学工学部）
		9月	8日	第5回支部常任幹事会
		10月	4日	第26回九州沖縄シンポジウム（九州大学）
		10月	7日	第6回支部常任幹事会
		10月	24日	2008年度第3回宮崎支部読書会（宮崎大学工学部） 「地球温暖化緩和への森林の貢献」JJS, Vol.42, No.12, pp.22-27.
		11月	4日	第7回支部常任幹事会
		11月		入会案内「科学者会議へのお誘い」全学配布
		12月	2日	第8回支部常任幹事会
		12月	5日	2008年度第1回支部例会「運営費交付金3%削減問題」（宮崎大学工学部）
	12月	13日	2008年度第2回支部幹事会，九州沖縄シンポ報告会（宮崎レマンホテル）	
2009年	1月	6日	第9回支部常任幹事会	
	1月	30日	2008年度第4回宮崎支部読書会（宮崎大学工学部） 「地球温暖化で問われるわが国の社会経済構造」JJS, Vol.43, No.7, pp.31-35.	
		2月	3日	第9回支部常任幹事会
		2月	11日	第65回「憲法と平和を守るつどい」（宮崎市中央公民館）
		3月	2日	JJS「科学者つうしん欄」投稿
		3月	4日	第10回支部常任幹事会
		3月	5日	第44期（2008.6-2009.5）支部活動報告
		4月	6日	第11回支部常任幹事会
		5月	1日	2008年度第3回支部幹事会（宮崎大学工学部）
		5月	3日	第66回「憲法と平和を守るつどい」（宮崎市中央公民館）
		5月	11日	第12回支部常任幹事会
		5月	23日	第42回宮崎支部定期大会（宮崎レマンホテル）

2008年度一般会計決算案

収入の部

2009/5/11

項 目	当初予算額 (円)	決算額 (円)	備 考
前年度繰越金	351,045	351,045	
会費	643,200	744,000	
一般会員	604,800	714,000	
院生会員	8,400	0	滞納中
購読会員	30,000	30,000	
資料集等販売	5,000	0	
補助金	30,000	24,000	
その他	15,000	17,395	
カンパ等	15,000	17,200	
利子等	0	195	
合 計	1,044,245	1,136,440	

支出の部

項 目	当初予算額 (円)	決算額 (円)	備 考
本部上納会費	555,600	547,600	
一般会員	529,200	530,200	
院生会員	8,400	4,200	院生数は昨年度2名、本年度は1名
購読会員	18,000	13,200	8ヶ月分×4名、4ヶ月分×3名で計算
活動費	150,000	100,422	
会議費, 班活動	20,000	28,700	
集い, 市民講座	50,000	41,722	
九州シンポ等	80,000	30,000	
事務費	55,000	48,289	
消耗品印刷費	15,000	11,129	
通信・郵送費	30,000	24,550	
会費払込負担	10,000	12,610	
公環部特別会計へ返済	50,000	50,000	公環特会からの貸出残金5万円
予備費	233,645	0	
合 計	1,044,245	746,311	

次期繰越金

390,129

(備考)

- ・会費収入が増額した理由は、滞納分の納入徹底にご協力頂いた結果です。
- ・全会員数62名中手動による振込は16名です。事務手続きの簡略化のために引き続き自動振り込み手続きのご協力をお願いします。

2008年度公害環境部特別会計決算報告

宮崎支部の公環部（公害専門部）は活動を休止しています。公環部特別会計は昨年度は特に予算立てされていませんが、一般会計への貸出がありますので、収入と支出についての決算報告を致します。

収入の部

項 目	当初予算額（円）	決算額（円）	備 考
前年度繰越金	412,955	412,955	
一般会計からの返済	50,000	50,000	一般会計への貸出残額5万円、 2009年度予算で完済予定
利子	0	538	
合 計	462,955	463,493	

支出の部



項 目	当初予算額（円）	決算額（円）	備 考
一般会計への貸出	0	0	
予備費	462,955	0	
合 計	462,955	0	

次期繰越金 463,493

2008年度会計監査報告

2008年度会計監査の結果、金銭出納簿、領収書、郵便貯金通帳および郵便振込み通知書等関係書類は全て整理保存されており、保有の現金と諸帳簿の記載内容とから、決算報告の内容に間違いがないことを認めます。

監査実施日: 2009.5.13
会計監査

御手洗正文 
根岸秋彦 

会員状況（2009年5月定期大会時）

班	一般会員	院生会員	計
宮崎大学農学部班	12 +0 -0	0 +0 -0	12 +0 -0
宮崎大学工学部班	11 +0 -1	0 +0 -0	11 +0 -1
宮崎大学教育文化学部班	11 +1 -1	0 +0 -0	11 +1 -1
NQ班	3 +0 -0	0 +0 -0	3 +0 -0
点在	25 +2 -2	1 +0 -0	26 +2 -2
計	62 +3 -4	1 +0 -1	63 +3 -5

読者会員	4 +0 -1
------	------------

2009年度活動方針案

1. 科学・技術の自主的、民主的発展につとめ、その普及をはかります。

政府による教育や研究の統制の動きが強まり、科学の軍事利用や悪用等の退廃や高等教育の質の低下をまねきつつあるのに対し、特に高等教育の充実という国民的立場に立った大学づくりにかかわる諸問題（例えば、高等教育機関の地域連携問題、国立大学法人となった大学運営に対する注意、技術者教育の問題など）に取り組みます。また、科学・技術と国民生活とのかかわり（例えば、まちづくり問題、食品安全問題、教育問題、環境・公害・防災問題、研究哲学やポリシー、あるいはITと人間など）を常に意識し、支部や班の例会、各種セミナー（若手セミナーなど）、そして地域住民との交流会（市民講座など）を行います。

2. 科学者の生活と権利をまもり、研究条件の向上と研究の組織・体制の民主化につとめ、教育・学問研究と思想の自由をまもります。

すでに行われた国立試験研究機関の独立行政法人化に加え、国立大学・工業高等専門学校も法人化され、私立大学も含めて、科学者の生活や研究の条件は、ますます劣悪な状態に追い詰められています。この動きに強く注意と問題意識をもって対応するとともに、研究者間の集まりを持ち、必要に応じて、大学人、研究者、市民への声明、アピールなどを行います。

3. 科学における各分野の相互交流をはかり、自主・平等の国際交流をすすめます。

例会をつうじて各分野の研究・教育での交流をはかり、特に点在会員と班に所属する会員との交流を深めます。また、留学生などとの国際交流も積極的に進めます。

4. 科学の反社会的利用に反対し、科学を人類の進歩に役立たせるよう努力するとともに、国内国外の平和・独立・民主主義・社会進歩・生活向上のための諸活動との連帯をつよめます。

米国の先制攻撃戦略、核戦略、それに追従する日本政府の動向に注意し、科学のあらゆる反社会的利用に強く反対します。また、ソマリア海賊対策を口実とした自衛隊の海外派遣に典型的に表れているように、戦争ができる国づくりを目指した動きが進みつつあります。このような情勢に迅速に対応するために、「憲法と平和を考えるつどい」を継続し、憲法の改悪に反対し、更に憲法の平和主義の精神を発展させていきます。

5. 将来をになう科学者を育成します。また、多様な分野において科学的精神をもった青年の育成につとめます。

若手セミナーを継続し、若手向けの資料等の宣伝・普及につとめます。

6. 支部として、組織および財政を強化することにつとめます。

とくに若手の一般会員や院生会員の拡大につとめ、院生会員相互の交流を援助します。また、会員のいない大学や試験研究機関にも積極的に拡大します。会費の徴収を滞りなく行い、健全な財政運営につとめます。

2009年度一般会計予算案

収入の部

項 目	予算額 (円)	備 考
前年度繰越金	390,129	
会費	623,400	
一般会員	595,200	800円×12月×62人
院生会員	4,200	350円×12月×1人
購読会員	24,000	500円×12月×4人
資料集等販売	5,000	市民講座資料等
補助金	30,000	
その他	15,000	
カンパ等	15,000	
利子等	0	
合 計	1,063,529	

支出の部

項 目	当初予算額 (円)	備 考
本部上納会費	539,400	
一般会員	520,800	700円×12月×62人
院生会員	4,200	350円×12月×1人
購読会員	14,400	300円×12月×4人
活動費	120,000	
会議費, 班活動	20,000	
集い, 市民講座	50,000	
九州シンポ	50,000	昨年度実績にあわせて金額を変更した(8万→5万円)
事務費	55,000	
消耗品印刷費	15,000	
通信・郵送費	30,000	雑誌・支部ニュース等郵送料
会費払込負担	10,000	点在・購読会員会費、自動引き落とし
公環特会への返済	50,000	本年度予算において完済予定
予備費	299,129	
合 計	1,063,529	

2009年度公害環境部特別会計予算案

収入の部

項 目	予算額 (円)	備 考
前年度繰越金	463,493	
一般会計からの返済	50,000	本年度予算において完済予定
利子等	0	
合 計	513,493	

支出の部

項 目	当初予算額 (円)	備 考
活動費	0	
予備費	513,493	
合 計	513,493	

役員名簿

	2008年度	2009年度
支部長	野中 善政 (教班)	野中 善政 (教班)
副支部長	牧村 進 (点在)	木下 統 (農班)
事務局長	平野 公孝 (工班)	平野 公孝 (点在)
情宣担当	西脇 亜也 (農班)	西脇 亜也 (農班)
組織会計担当	高橋 伸弥 (工班)	高橋 伸弥 (工班)
幹事	川村 修 (農班)	川村 修 (農班)
	山北 聡 (教班)	山北 聡 (教班)
	長田尚一郎 (工班)	長田尚一郎 (工班)
	金子 弘二 (点在)	橋本 修輔 (点在)
	西田 隆二 (点在)	西田 隆二 (点在)
	山根 伸一 (点在)	牧村 進 (点在)
会計監査	根岸 裕孝 (教班)	根岸 裕孝 (教班)
	御手洗正文 (農班)	御手洗正文 (農班)
班責任者	川村 修 (農班)	川村 修 (農班)
	長田尚一郎 (工班)	長田尚一郎 (工班)
	山北 聡 (教班)	山北 聡 (教班)
	渋沢 透 (NQ班)	渋沢 透 (NQ班)

全国定期大会代議員

第39回

野中 善政 (教班)

第40回

野中 善政 (教班)

全国幹事

第44期

野中 善政 (教班)

第45期

平野 公孝 (点在)

日本科学者会議宮崎支部規約

制定 1968年11月25日 改正 1970年 6月16日
改正 1972年 5月13日 改正 1973年 5月26日
改正 1974年 6月 8日 改正 1998年 5月23日

第1条 本支部は、日本科学者会議会則に基づき「日本科学者会議宮崎支部」と称する。

第2条 本支部は、「日本科学者会議会則」の定める目的を果たすため、次の事業を行う。

1. 支部機関誌その他の出版物の発行
2. 調査・研究会、討論集会、講演会などの開催
3. 地域・国内・海外との学術交流
4. その他必要と認める事業

第3条 本支部は、日本科学者会議会員のうち、宮崎県に在住、または在職するものにより構成される。

第4条 本支部の最高機関は支部大会であり、支部幹事会の招集によって年一回開催される。また、必要に応じて臨時支部大会を開くことができ、支部総員の3分1以上の要求がある場合には支部大会を開かなければならない。

- 2 支部大会は、支部総員の2分の1以上(委任状を含む。ただし、委任状の数は出席者の数を越えてはならない)の出席によって成立する。大会の決定は出席者の過半数の賛成を必要とする。
- 3 支部大会は、活動方針、予算、会費などの決定、決算の承認、幹事(若干名)、支部長、副支部長、会計監査(2名)、及び全国大会代議員の選出を行う。

第5条 本支部に支部幹事会をおく。幹事会は支部大会の決定に基づき支部の運営にあたる。

- 2 幹事会は、支部長、副支部長及び幹事(若干名)で構成される。
- 3 幹事会は幹事の過半数の出席によって成立し、決定は出席者の過半数の賛成を必要とする。
- 4 幹事会は、互選により事務局長及び常任幹事若干名を選出する。
- 5 幹事会構成員の任期は1年とし、再任を妨げない。

第6条 常任幹事会は支部幹事の任務を代行し、通常業務を処理する。

- 2 常任幹事会には、支部長、副支部長、事務局長、情宣担当幹事、組織会計担当幹事をおく。
- 3 幹事会または常任幹事会のもとに専門部、実行委員会、専門委員会などを設置することができる。

第7条 本支部に、原則として地域別、職場(または職域)別に班をおく。班は、3名以上の会員によって構成され、班責任者をおく。

- 2 複数の班により分会を構成することができる
- 3 班及び分会の結成、解散の承認は幹事会が行う。

第8条 本支部への入会には、会員一名の推薦と常任幹事会の承認を必要とする。

第9条 本支部の財政は、会費、事業収入、及び寄附金による。

第10条 本規約は、支部大会で出席者の3分の2以上の賛成により改正できる。

付則

- (1) 規約は1998年5月23日より発効する。
- (2) 会費は、月額本部上納金プラス100円とする。ただし、大学院生会費は、本部上納金のみとする。
- (3) 会計は、右記に置く。889-2192宮崎市学園木花台西1-1 宮崎大学工学部 高橋伸弥